

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

学校名	佐賀大学教育学部附属中学校		
-----	---------------	--	--

1 前年度 評価結果の概要	・「学力の向上」について、研究1年目である「未来をひらく 共創する学び手の育成～エージェンシーを育む方策を通して～」の実現に向けて、研究推進部を中心に全職員への理解を進め、各教科で協働的な学びや探究的な学びを実践した。その中でAARサイクルをまわす活動を設定し、エージェンシーを育むことができるような手立てを取った。また、研究主任による全校集会での説明や研究通信の発行等を通して、生徒・保護者への周知・理解を進めた。それにより、教員と生徒・保護者とが共通の認識をもつことができた。ICTの利活用に関しては、肯定的な回答をした生徒・保護者は多かったものの、ICTの活用が「考える力」の向上につながったことを実感するという結果には至らなかった。ICTの活用方法については今後検討していく余地がある。 ・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」について、昨年度はB評価ではあったが、今年度は勤務時間の削減に取り組むことができた。今後は、部活動廃止に向けて、社会体育への移行を進めるとともに、魅力ある学校づくりを目指し、引き続き大学と連携しながら、全職員で業務内容を検討していく必要がある。 ・「健康・体づくり」について、健康増進や体力づくりなど意識は高いものの、中学3年生は受験期ということもあり、運動する習慣が少なかった様子である。中学1・2年生も決して高い値ではないため、体育の授業や部活動の指導の中で、運動と体力の関係、健康との関係について理解を促し、習慣化へとつなげたい。 ・全体的に概ね達成できており、成果が見られる。研究についても2年目になるため、生徒と共に学校規定の見直しや実行委員会の取組など検討し、生徒達のエージェンシーを発揮する場面を設定していきたい。		
2 学校教育目標	本校の使命に応じて、高いレベルで自律し、共同することができる次世代リーダーを育成する		
3 本年度の重点目標	① 未来をひらく共創する学び手の育成を目指す。 ② 学校教育全体を通して、命や人権を大切にする指導を行い、生徒の心と人権感覚の育成を目指す。		
4 重点取組内容・成果指標			
(1)共通評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	
●学力の向上	◎様々な学びの場で、生徒自ら目標を設定し、行動し、振り返るAARサイクルを回す手立てをとることによる、エージェンシーの育成。	○指導計画に基づき、授業実践を行うとともに、適切な評価により得られた結果などを次期計画の修正に生かす教員90% ○学校での学習が、学習意欲の向上、学ぶ意味や価値の充実に繋がっていると考える生徒85% ○課題に対して、目標を設定して取り組み、自らの取り組みについて振り返ることができている生徒85%	・各教科等における探究的な学びの在り方の追究 ・単元や題材を通して、生徒自身が見通しをもち、取り組み、振り返ることができる学習過程の検討及び実践 ・課題設定や話し合いの場の機能、振り返り、評価方法等の工夫 ・各教科における単元または年間指導計画の見直し ・課題解決へのアプローチの明確化及び他者との協働による最善解の追究
	◎ICT利活用を通じて、個に応じた指導方法、学習時間、教材等を豊かで柔軟に提供する。	○各教科等の授業において、計画的にICT機器を活用した授業で、個に応じた指導を実践できる教員90% ○ICT機器を活用した学習において、考える力が高まったと感じる生徒80% ○生徒用パソコンを利用することで情報を処理したり、表現したりする力が高まったと感じる生徒90%	・教科固有の見方・考え方を働かせるために、ICT機器を効果的に活用する学習指導の実践 ・生徒用パソコンでの教材の提示を工夫し、個に応じた学びの場の設定 ・課題に対して考えを深める場面で、協働的な学びの場の設定 ・探究的な学びにおいて、情報を適切に処理したり、表現したりする力を高める指導の工夫
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒85%以上	・各教科の授業で、お互いが認め合えるような場の設定 ・学年職員のローテーションにより、組織的かつ計画的な道徳教育の実施 ・人権週間において、命や人権について考える機会を設置 ・夏季に人権・同和教育に関する職員研修を実施
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ●計画的、継続的な支援体制の充実	○いじめの防止など(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的に対応ができていると回答した教員、生徒ともに85%以上	・心の扉(月1回)、いじめ実態調査(年3回)、教育相談等による生徒の状況の把握 ・生徒主体学活による人権学習の実施、生徒会と連携し、いじめゼロ宣言を活用するなどして、いじめを許さない心の育成
	○エージェンシーを発揮する場としての生徒会活動や学校行事の充実	○「自分たちの手で学校を創っている」について肯定的に回答した生徒80%以上	・生徒会活動について説明する対面式の設定 ・年2回の生徒総会を開催、自治の意識の醸成 ・生徒と教師が共にAARサイクルを回すことによる共創の姿勢の重視
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	○健康・体づくりに運動習慣は大切と考える生徒80%以上 ○授業以外で運動やスポーツを行う時間の合計が、1週間で90分以上の生徒80%以上	・運動習慣形成に関する意識調査 ・運動時間や過当たりの運動頻度の実態調査 ・調査結果と体力の関係を説明し、運動習慣の改善を推奨
	●基本的生活習慣の意識化と定着	○「健康において運動、食事、睡眠は大切」と考える生徒90%以上	・保健室来室時における生徒の実態把握 ・長期休業前の保健指導や、学年育友会を通じた家庭への啓発 ・生徒会健康づくり部の企画「シエスタ大革命」と連動した啓発活動および実践化
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	○時間外勤務を削減できるよう努力した職員80%以上。 昨年度の時間外勤務の平均時間を下回る。	・退勤時間の揭示、アナウンス ・業務内容精選、見直しのための会議設定 ・会議資料等共有の仕方の工夫 ・勤務間インターバルを導入し、退勤から次の出勤までの休憩時間を11時間以上を確保する。 ・R8に向けた課外活動のブレを実施 ・アンケートをデジタル化する
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			
		重点取組	具体的取組
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	
○教育実習	○実習生の指導技術の向上や達成感を保障する実習指導の充実 ○大学との連携	○教育実習後のアンケートで達成感・充実感があると回答をした実習生80%以上 ○教育実習中の大学教員による視察・指導の達成80%以上	・指導教員による魅力的な教職モデルの垂範 ・実習日誌等を通した、実習生の達成感や成長の様子の確認及び指導・助言 ・大学教員との情報共有
○研究	○エージェンシーを育成するための工夫 ○AARサイクルを取り入れた学習過程の実践 ○生徒が主体となる活動の場の設定	○授業の中で見通しをもったり、個またはグループで課題に対して吟味したり、学習内容や学び方を振り返ったりする時間が確保されていると思う生徒90% ○授業や諸活動を通して、エージェンシーを高めることができた生徒80% ○これからの社会で生きていくために必要となる力を授業や諸活動を通して高めることができた生徒80%以上 ○授業の中で、生徒が見通しをもって課題に取り組んだり、学び方を振り返らせることで、エージェンシーを育成することができた教師85% ○教科の本質を追求する研究を推進した教師90%以上	・エージェンシーを育成する視点に基づくカリキュラムの編成 ・AARサイクルを回すための手立ての追究 ・B-Timeの再検討 ・生徒が主体となる活動のあり方の追究